

学校教育目標

自ら考え 自らの力で 未来を切り拓く宮野浦の子ども ~自律・協働・創造~

本校ホームページ <http://www.sakata.ed.jp/miyanoura/>



宮小だより



令和6年8月28日号
発行:酒田市立宮野浦小学校

夢中になる

昨年度は2学期が始まって猛暑が続きました。その対策もあり、今年度は27日を始業式としたところです。子どもたちには、「自分で決める」「何かに夢中になる」ことを大切にして欲しいと伝え、夏休みに入りました。家庭での過ごし方はどうだったでしょうか。子どもたちの自律のチャンスでもあり、失敗したときには子どもに責任を取らせ、二度と失敗しないように、自分で生活の仕方や感情、社会的な規律の遵守などについてコントロールできるようにしていくことを保護者のみなさんにもお願いしました。これからの家庭生活でも大切にしていって欲しいと思います。

始業式では、私がこの夏夢中になったパリオリンピックについて話をしました。この大会で日本は45個のメダルを獲得し、中でも金メダルは20個とこれまで参加した海外でのオリンピックでは最高の結果を残しました。どの種目も感動と勇気を与えてくれましたが、金メダルを獲得した男子体操団体がとても印象に残っています。最終種目鉄棒の演技前、3点以上差をつけられていた日本は、普通に考えれば逆転は不可能でした。しかし団体メンバーは諦めることなくつなぎ合い、最後に勝利をつかみ取りました。最後に演技した橋本選手は、「みんなに助けられた金メダルで、この4人がいなかったら、この演技はできなかったし、やっぱり諦めなくてよかった」と話しています。『つなぎあう姿』に感動しました。この橋本選手は、最後に演技するのでプレッシャーも大きかったはずですが、しかも、今回はけがの影響もあり、調子はあまりよくありませんでした。しかし、着地も止め完璧に近い演技をしました。これだけでもすごいのですが、彼の人間性はこのあとも示されました。逆転された、中国選手の最終演技が次にあったからです。場内は大歓声に包まれ、橋本選手も興奮を隠しきれない様子でしたが、歓声を抑えるよう人差し指を口元にあて静かにするよう観客に求めました。さらに、両腕で歓声を抑えるポーズも見せ、少しでも中国選手が演技しやすい雰囲気になれるよう協力を求めました。そして中国選手と握手を交わしてベンチに戻りました。『おもりやり』という言葉にはなりますが、この行動はすごいと思いました。金メダルが決まった選手たちは、嬉しいのはもちろんですが、涙を流す姿もありました。悔しくて流す涙もありますが、嬉しくて、感動して流す涙はとても素敵でした。

一方で、メダル獲得を期待されながら敗れてしまった選手もいました。努力すれば必ず夢は叶う、そうとは限りません。どんなに努力しても、叶わないこともあります。日本国内の予選に敗れ、オリンピックに出場できなかった選手もいます。達成したい夢や目標に向かって努力するとき、人は夢中になります。つらくて大変なこともあるかもしれませんが、夢中で取り組むと他には代えがたい喜びや充実した気分を味わうことができます。友だちと関わり合うことで、勇気や感動を与えることになります。2学期も目標に向かって『自ら』諦めず取り組んでいきましょう。

校長